

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1272900430		
法人名	株式会社ケアネット徳洲会		
事業所名	グループホームはつとみ		
所在地	鎌ヶ谷市初富204-4		
自己評価作成日	令和3年12月20日	評価結果市町村受理日	令和4年2月7日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/12/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ACOBA		
所在地	我孫子市本町3-4-17		
訪問調査日	令和4年1月31日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者様に安心安全な生活を提供できるよう医療面の充実を図り、ご家族と施設が密に連絡を取り合い最期の時まで笑顔で暮らして頂けるよう努めています。当たり前の基準を高く持ち職員が笑顔で入居者様に接することができるように「はつとみスローガン《あふれる笑顔》」を実践していきます。新型コロナウイルス感染予防のため合同レクや外部のボランティアを迎えたり出来ませんが、日々の生活の中でゲームや簡単なレク等を行い、生活の充実を図ります。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

周辺には梨畑が広がり、まだ自然に恵まれた環境下にあるグループホームで、経営法人が(株)ケアネット徳洲会である。系列総合病院及び訪問クリニック、24時間対応の訪問看護ステーション支援もあるなど医療支援が充実しており、家族にとって安心感がある。就任4年目の施設長は、コロナ禍においてこそ、利用者支援の向上には全職員の連携が先ず重要と考えている。その為に何でも話し合える環境作りと積極的な改善提案で、笑顔のあるホーム目指している。感染防止の為に、諸活動は制限せざるを得なかったが、家族アンケートでは「職員の対応の良さ、利用者が穏やかに過ごしている」などの満足度の高いコメントが多かった。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価(ACOPA記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝礼実施時に理念の唱和、会社施設のスローガンの唱和を実践しています	「生命を安心して預けられる施設、健康と生活を守る施設」の理念を制定し、玄関に掲げている。定期的に全員で唱和し、毎日の利用者支援の中で実践してるかを確認している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	グループホーム協議会へ行っていたが、現在新型コロナウイルスのため交流中断中。電話での連絡は定期的に行っています。	自治会に加入している。重度化の方が増えてきたためにコロナ禍以前から地域行事への参加はしていない。ボランティアの訪問もコロナ禍で中止している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	エコキャップは継続しています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	新型コロナウイルス感染予防のため会議は開催していません。書面での報告のみ。ご家族様からの質問や提案は随時受付しております。	ホーム関係者のみで年6回開催している。ホームにおける活動、職員研修会、入居者情報(健康状態・ヒヤリハットや事故)等の資料を纏めて関係者へ送付し、内容を確認頂いている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	鎌ヶ谷市高齢者支援課、包括支援センターとは常に連絡を取っています。相談等は積極的に行います。	市の窓口は高齢者支援課、初富包括支援センター、社会福祉課である。定期的に訪問し情報交換し、アドバイスを頂く事もあるなど、協力関係を作っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	内部研修を通し職員へ身体言葉の拘束禁止を教育しています。職員全員でどのように対応したら拘束をしないで対応できるか日頃より話し合い、意識の向上に努め、委員会を毎月開催し、防止に努めております。	ホーム内で身体拘束等適正化検討委員会を毎月開催し議題に基づき日頃の支援について検討している。特に内部研修は年間研修計画の中に定めて実施している。拘束しないで支援する、利用者の立場に立って考える事を習慣づけること等を話し合っている。拘束が必要な利用者はいない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内で虐待はありません。研修を通じ虐待禁止を徹底、今後も教育研修により徹底していきます。今後も慣れによる知らず知らずの虐待(言葉等)起きないように、全職員で注意合って行きます。委員会を通し情報収集し、管理職への報告を速やかに行える仕組み作りをしております。		

8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	年間研修計画で学んでいます。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な説明をし理解納得をして頂いています		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	新型コロナウイルスのためお会いしてお話できていませんが、電話にて相談や報告等行っています。	家族との対面は、基本は「窓ガラス越し、ワクチン2回接種の場合はエントランスでの面会は可能」としている。毎月のおたよりや、電話で家族へ報告して、要望や意見を伺い運営に反映している。家族参加の行事も現在中止している。	長期化するコロナ禍に対応した家族とのコミュニケーションの取り方についてご検討いただきたい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎年職員アンケート、意見提案を実施。また管理者にすぐに提案できるようにしています。話しやす環境を作る為、穏やか・笑顔を中心掛けております。	管理者は積極的に全職員の意見を聞くと同時に、誰もが自由に提案できるような職場の雰囲気づくりに努めている。申送りやホーム会議、各種会議を通じて、職員から自発的に意見を出してもらい、ホームの運営に活かしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の個性が活かせるよう、コミュニケーションから探り、仕事を任せる等でやりがいを引き出しています。また、疲労度等も日々の様子を気にしながら適宜声をかけ、無理をしないよう配慮しております。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修は必修となっております。日頃の業務の中で気づきをケアにつなげ、大きな失敗につながらないような事は上司から細かく決めずに職員の自主性を生かしたケアをすることで失敗から経験へと昇華できるよう見守っています。外部研修は中断中です。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会、包括支援センターの参加により4グループホームが情報交換、連携を密に取れる体制を築き相互に訪問もしています。(現在は電話での連絡のみです)		

Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時ケアプラン更新時は必ず計画作成担当より入居者様とご家族に意向を伺いケアプランを作成しています。職員からの積極的な関わりで、早く慣れて頂けるよう努めております。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	上記同様。 また来訪時に必ず小さな事でもご様子をお知らせし意見を伺えるようにしています。また、気になる点は電話にてお伺いします。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居時に当施設で受けられるサービスを説明し適切に受けられるように助言しています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は常に入居者様と密に関わりながらご家族来設時に情報を共有するようにしています。いつも入居者様の意向に耳を傾けています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族来設時には介護記録を開示できるようにし、日々の暮らしを見て頂けるようにしています。無理をしない範囲で、ご家族様にも協力の提案をしたり、ご家族様からの依頼も可能な限りお受けし、共に関わる環境作りを心掛けております。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご希望があれば、電話等(ご家族了解の上)により外部との連絡は制限しておりません。入居者様の友人が来てくれる事もあります。	コロナ禍でも条件付きで訪問者を受け入れ、馴染みの関係が継続できるように支援しているが、来訪者は減少している。利用者それぞれに人や場所に対する思い出があり、懐かしむ方がいる。職員は寄り添いながら支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士の相性や、関係を見て、状況に応じた席替えなどで皆が穏やかに過ごせる環境を維持できるようしております。職員が間に入ることにより、活発なコミュニケーションが取れる様対応しております。		

22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去になった方のご家族から今の状況の連絡が来たり、近所でお会いした際には挨拶を行っています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	【私の気持ちシート】を使用しご本人の思い希望の実現のためカンファレンスを実施しています。職員間の情報提供により、思いをケアに活かせるよう、対応しております。	日々の支援の中で、利用者の表情や仕草、語る思いや意向を元に【センター方式】の『私の姿と気持ちシート』を作成し、全職員が情報共有をして、利用者の支援に活かしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の訪問時などにご本人ご家族から聞き取りを行い、職員に周知しております。入居者様の生活歴が解るように居室担当を決め、今までの状況がわかるようにまとめた物を作り、情報を共有しています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	居室担当者に情報を集め、毎月会議での発信を行い、全職員が把握できる環境を作っています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	必ずご本人・ご家族とお話しし、複数の職員によるカンファレンスを実施し介護計画を作成しています。	介護計画書を作成する前に、本人や家族の意向等を聞き、日々の情報を集め複数の職員で同計画書の素案を作る。家族等と話し合い介護計画書を作成している。複数の職員でモニタリングも丁寧に行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	業務日誌や連絡ノートを用い、タイムリーに情報を職員間で共有し、実践・検討が出来るようにしております。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	グループホームで提供できないサービスの希望があった際でも、出来ない理由を説明したうえで、どの様にしたらその希望が実現できるのかを他業種の方にも相談し、実現に向けて取り組んでおります。		

29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	入居者様の手作業の新聞たたみの為に、古新聞の提供を新聞配達にの事業所より、定期的に頂けるようになりました。散歩で通る近所の方とは会話もあり、庭のお花をいただいたりしています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は現在二か所をお願いしています。重度化に伴い24時間対応のクリニックに比重が移っています。また訪問歯科とも連携しております。ご家族からの希望があれば、そちらをお願いすることも可能です。	総合病院(月二回の往診)とクリニック(24時間対応)をかかりつけ医としている。週一回訪問歯科医が診療、週一回訪問看護ステーションの看護師の健康チェックが行われている。医療情報は、全職員で共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週一回の訪問看護での健康チェックと24時間連絡可能な訪問看護が目の前のシルバー訪問看護ステーションで行われております。こまめな相談、指導をケアに活かしております。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	同系列の鎌ヶ谷総合病院の医療体制で安心して入院治療が出来ています。他の病院への入院の場合も、定期的に訪問し、状態を伺う等、情報収集や相談等行なっております。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化、終末期の在り方は年一回は必ずご家族の希望意向を確認し、その時期が近い方には医療介護で十分に話し合い、ご家族にも方針の確認と説明をしています。その後の職員のフォローにも注意をはらっています。	契約時に、重度化や終末期ケアの説明をしている。重度化や終末期を迎えた時は、かかりつけ医や訪問看護の指示・指導を得て全職員で支援している。終末期ケアの担当職員の研修やフォローも行っているが、今年度も看取りした方はいない。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	施設内研修を行い、スムーズな対応が出来るよう指導しております。コロナが落ち着いたら救急救命講習へ職員を行かせたいと考えています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年二回の消防立会い訓練・年一回の避難訓練を実施しております。定期的に研修も行い、災害時の対応指導を行なっております。向かいのシルバーケア鎌ヶ谷とも友好的な関係を維持し、非常時の協力が出来るよう努めております。現在コロナのため立ち合いは禁止になっていますが報告書提出し、不明点の相談や指導を受けています。	コロナ禍で、消防署員立会いの消火避難訓練は実施できなかったが、自主消火訓練は、年4回実施し消防署に報告した。地震等避難訓練も実施し、近くの介護施設とも連携を取り合っている。新型コロナウイルスやインフルエンザ等の感染症にも基本対策を実施している。	

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	使用禁止用語の掲示、研修をし意識付けが出来るようにし、日頃より職員同士注意し合い、尊厳とプライバシーの確保に努めております。	排泄や入浴を促す時は、利用者が自己決定し易いように、さり気ない言葉かけに努めている。誇りやプライバシーを損ねる言葉かけをしないよう全職員で互いに注意し合っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	何がしたいか、どうしたいかを一人一人の表現レベルに応じて言葉かけを使い分け、どの様なレベルの方でも希望を伝えることが出来るような働きかけを心掛けております。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	命に関わらない状態でなければ、可能な限りご本人の希望に沿って対応しています。嫌なことを無理矢理させることの無い様気を配って対応しております。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	あまりに奇抜な格好や季節、室温にそぐわない格好をされている場合を除いては、ご本人の意思を尊重しております。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事前から今日の献立の話をしたり、食事中も職員も同じものを食べ、会話を楽しみながら過ごすようにしております。	フリーズ食品を使用し、味付けや食形態は利用者に合わせ調整している。ご飯や汁物は厨房で作っている。季節感や食の変化を楽しむため月一回利用者と献立を考え、行事食や手作り食を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日の水分や食事はきちんとチェックし記入しています。少ない方へは好きな物、飲みやすい物を提供し、確保できるよう対応しております。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食事後の口腔ケアは全員実施しています。訪問歯科がチェックしアドバイスを受け管理しています。		

43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	時間により声かけ誘導しております。 オムツ対応の方もなるべく昼間はリハビリパンツにさせていただきトイレで排泄できるよう支援しています。	トイレの表示板は、二方向から見えるように立体的に取り付けられている。リハビリパンツの使用者も排泄パターンに合わせ、さり気なく誘導し、『トイレで排泄できる』喜びを感じてもらっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ラジオ体操等運動を取り入れ、自然な排便が促されるよう支援しております。必要に応じて個人的に腹部マッサージを取り入れております。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	自立の入居者様はご自分で入浴日を決めることもできます。気分が乗らない時は拒否することもできますが、余りにも長く入っていない方へは、入りたい気持ちになって頂けるような声かけを工夫しております。	週二回の入浴が基本で、利用者の希望日に合わせ入浴ができる。緊急時もシャワー浴や入浴で対応している。家庭用の浴槽が置かれ、自宅で入浴している気分である。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	施設内は自由に行動することが出来ます。居室で午睡したり外で職員と外気浴をしたりレクで運動したりし安眠に繋がっています。夜間空腹を訴える方へは軽食を提供したり、温かい飲み物を提供しております。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	最新の情報をファイルし薬が追加になったり新しい薬が出た時は状況を記録に残しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	材料を切ってもらったり、食後の方付け、洗濯物干し、たたむ、ゴミ捨て、など毎日していたことを施設でもしてもらい役割をもっていただき、張り合いがある生活をしていただいています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご家族様の協力を得て、外出にお連れして頂いております。職員対応としては、近くまでの散歩や日光浴を取り入れ、室内にこもりっ放しにならないよう配慮しております。	コロナ禍で、外食やドライブ等は自粛中である。外気浴や気分転換に、外出時間や散策コースを縮小し、近くの公園に少人数で出かけている。花の水やり等は、利用者に積極的に参加してもらっている。	

50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>個別にお小遣いを預かっており必要に応じて買い物に行くことは可能です。</p> <p>現状、お金を持つと他の方にあげてしまったり、管理が難しい状況のため、小銭以外はお預かりしております。現在はコロナのため中止しています。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>ご本人の希望で電話をすることはあります。手紙も希望あれば対応します。</p>		
52	(19)	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>食堂ではご希望に合わせた番組選りを行い、皆でテレビを楽しんだり、笑いのある生活を心掛けております。清潔保持に努め、毎朝の清掃行っております。ソファや椅子、好きなどころに座ってくつろげる環境を整備しております。</p>	<p>居間は整頓され、接する台所やトイレの不快感もなく清潔感がある。冬場の乾燥を防ぐため廊下にも、加湿器が置かれている。窓からは、周辺の梨畑が眺められ、梨の白い花の咲く頃、果実のなる頃へと季節の移ろいを皆で楽しみにしている。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>食事以外では席は決めておりません。</p> <p>職員と過ごす方、居室で過ごす方、ソファで過ごす方、居たい場所に居られる様支援しております。レクの時間も強制せず、参加を促し、自由に参加できる環境を提供しております。</p>		
54	(20)	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>ご自宅で使用していたものを持ってきて頂いております。ご希望あれば配置換えもその都度行い、ご本人様の過ごしやすい環境となるよう配慮しております。</p>	<p>午前中、利用者と一緒に掃除をし整理整頓に努めている。利用者の希望を聞きながら、作品や家族写真を飾ったり、安全面を考慮し持参した家具の配置換えをするなど、寛げる空間作りを支援している。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>共用部は障害物となる物を置かず、自由に使用できるよう配慮しております。トイレの看板・2階休憩室の看板等、混乱せずに生活できるよう環境整備に努めております。</p>		